第３回 国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC3D 関係＞国際会議出席報告書
3-3／SC3D-①	SC3D/WG2「電子部品のデータ要素」ドイツ／フランクフルト国際会議出席報告書 20090615-20090617
資料 No.	＜SC47E 関係＞国際会議出席報告書
3-3／SC47E-①	SC47E/WG1、WG2「個別半導体デバイス／半導体センサー、マイクロ波デバイス」韓国／済州島国際会議出席報告書 20090616-20090617
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議出席報告書
3-3／SC62A-①	SC62A「医用電気機器共通事項」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090615-20090618
3-3／SC62A-②	TC62「医用電気機器」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090617-20090618
3-3／SC62A-③	SC62A/JWG7「医用電気機器共通事項」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090610-20090612
3-3／SC62A-④	SC62A/WG14「医用電気機器共通事項」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090615-20090619
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議出席報告書
3-3／SC62D-①	SC62D「医用電子機器」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090615-20090617
3-3／SC62D-②	SC62D/MT18「医用電子機器／治療機器」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090611-20090612
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議出席報告書
3-3／TC80-①	TC80/WG6「デジタルインタフェース」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090629-20090701
資料 No.	＜TC93 関係＞国際会議出席報告書
3-3／TC93-①	TC93/WG2「デザインオートメーション」米国／サンフランシスコ国際会議出席報告書 20090730
資料 No.	＜TC110 関係＞国際会議出席申請書
3-3／TC110-①	TC110/WG2「フラットパネルディスプレイ／液晶ディスプレイ」米国／サンアントニオ国際会議補助報告書 20090605-20090607
3-3／TC110-②	TC110/WG4「フラットパネルディスプレイ／プラズマディスプレイ」米国／サンアントニオ国際会議補助報告書 20090605-20090607
3-3／TC110-③	TC110/WG5「フラットパネルディスプレイ／有機 EL ディスプレイ」米国／サンアントニオ国際会議補助報告書 20090605-20090607
3-3／TC110-④	TC110/PT62629「フラットパネルディスプレイ／3D ディスプレイプロジェクト」米国／サンアントニオ国際会議補助報告書 20090606-20090606
3-3／TC110-⑤	TC110/PT62629/PT62595/HHG「フラットパネルディスプレイ／3D ディスプレイプロジェクト／バックライト／ハーモナイズ」米国／サンアントニオ国際会議出席報告書 20090605-20090607
3-3／TC110-⑥	TC110/PT62595「フラットパネルディスプレイ／バックライトプロジェクト」米国／サンアントニオ国際会議補助報告書 20090605-20090605
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議出席報告書
3-3／SC31-①	SC31/総会、WG 等「自動認識及びデータ取得技術」オーストラリア／シドニー国際会議出席報告書 20090608-20090612

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC3D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 7 月 21 日

（報告者記載）予算番号：H21SC3D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野典子　報告書作成者氏名：南野典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC3D (半角)
SC3D/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	電子部品のデータ要素
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 15 日 ～ 2009 年 6 月 17 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Reinhard Nerke(独)	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日、独、蘭、瑞、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ジョンマッキン（コムテク）、○南野典子（東芝）、村山廣（東芝）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今回の SC3D/WG2 での主な議題は、
1）IEC CDD（電気電子分野の製品辞書（IEC61360-4）をデータベース化し維持管理しているデータベース規格）の閲覧・検索・メンテナンスのための Web システム Version2、
2）IEC CDD の入出力としても利用可能な Parcel 形式（日本からの提案）NWIP（New Work Item Proposal）、
3）将来版 IEC61360-1,2 について、
4）PLIB データモデル（ISO13584-42/IEC61360-2）の変更について等であった。

会議の内容としては、1）スケジュールの再確認を行った。多少遅れている模様。2）NWIP 文章について会議の席で修正し合意した。近々投票のため回覧される。（会議後、7 月 17 日に NP 回覧開始）3）IEC61360-1 は辞書作成のためのルールをまとめたもの、同-2 は辞書のデータモデルを定めたものである。ここ最近は、データ書式の記述が問題とされており、ISO からのコメントもあわせ、日本の考えを意見書として提出した、4）変更について、リエゾンより説明。主に ISO 側で改定が行われているため IEC で全てのメンバーが把握していない内容もあり、IEC 側でも今後内容把握をしっかり行うことを確認した。

また、今年、韓国が P メンバー国に新たに加わってから初めて韓国からの出席者があった。韓国とは既に JEITA/ECALS－KEA（韓国電子産業振興会）と辞書利用について協力体制にある。今後、IEC 活動でも協力を行っていきたい。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC47E-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 7 月 31 日

（報告者記載）予算番号：H21SC47E①、②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井一史　報告書作成者氏名：大芝克幸　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E (半角)
SC47E/WG1 SC47E/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称（日本語）	個別半導体デバイス
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 16 日 ～ 2009 年 6 月 17 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）済州島西帰浦市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG1:Prof. Park, WG2:大芝	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 中国・韓国・日本、参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○梅田章(産業技術総合研究所)、○大芝克幸(ソニー)、大和田邦樹(帝京大学)、竹内南(マイクロマシンセンター)、岩岡秀人(金沢工業大学)、青野宇紀(日立製作所)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

【背景・目的】各 WG における昨年 10 月の TC47 東京会議からの活動進捗報告、各 PJ の文書審議と次のステップの確認。既存文書のメンテナンスと新規課題の検討。

【成果・問題点】

[WG1]

(1)IEC60747-14-4(加速度センサー)以外の項目については、議長が報告した通りに進行。何等議論はなし。

(2)IEC60747-14-4 については、本文及び Annex A B C をまとめた新 FDIS 案への ISO のコメントが、回答期限の 5 月末を過ぎた会議直前になって ISO/TC108/SC3 の委員長から届いた。コメントは SMB,TMB の了解（すなわち ISO/TC108 の Scope に基づいて検討する）を逸脱する政治性の強い第一部と、表現に関するコメント群の第二部から構成されていた。PL として第一部の全てについて否定的コメントを加えた。席上、他国委員からは何の意見も出なかった。最終的には、国内 WG1 で検討して回答することになった。

[WG2]

(1)60747-16-3Ed.1Am.1(周波数変換器)と 60747-16-4Ed.1Am.1(スイッチ)の両 CDV は､投票で Technical Comment が出なかったため、RVC 発行後 FDIS をスキップして IS が 3 月に発行された。MCR から 20 ヶ月と短期でプロジェクトを終了。

(2)60747-16-5(マイクロ波発振器)は、CD 文書へのコメント(Editorial 4 件)への Observation 案を審議し日本からの提案に修正を加えることになった。また、東京会議で CD 回付前のドラフトに対する UK コメント(Technical 含む 31 件)の指摘内容確認と Observation 案の審議を行った。ほぼ日本からの提案どおりで若干の修正を加え CDV に反映する。この UK コメントは、CO を通っていないため、CC 文書に取り込めるかどうか、Technical Offcer に確認することになった。

次回は、10 月に IEC 総会期間中に開催。場所は、テルアビブ(イスラエル)。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 7 月 21 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62A④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：柴田 優　報告書作成者氏名：市川義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	医用電気機器共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 15 日 ～ 2009 年 6 月 18 日		
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Lawrence Knuckey (AU)	幹事国 ベルギー	
参加国及び参加人数	20 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、日本、ベルギー　、参加人数（51）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○市川義人（オリンパスメディカルシステムズ（株）），○根元幾（東京電機大学）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

［ 背景･目的 ］2008 年 4 月のオークランドの SC62A 会議で IEC 60601-1 第３版の EU での強制は予定通り 2009 年 9 月と決定し、問題のあるリスクマネジメントのオーバービューシートを半年以内に出す事になった。しかし現在でもまだ完成していない。大きな混乱が予測される。日本として強制の時期の明確化と少なくとも北米と同期すべきとの意見を述べる。

［ 審議結果 ］

・会議の冒頭で、日本から北米の適用次期の情報の紹介と、少なくとも EU 地域での強制次期に関し、IEC 60601-1 第３版を北米と同期させ 2012 年 6 月 1 日にすべきだと提案した。その結果 Cenelec も問題視していたらしく、同様の日程で EU に提案する方向となった。ただしまだ個別規格がそろっていないもの、副通則も強制時期があっていない等の適用時期に関しては慎重に対応するようである。

・ソフトウエアに関して、かなり問題視しているようで、現在 IEC 80001-1IT ネットワーク機器を策定中だが、これに関しガイダンスを７種類策定する計画が発表された。今後注意が必要である。

・SC 下の各 WG,JWG,MT においてメンバーの参加率が悪く、作業が進まないという意見が多数出た。MT によっては数名しか参加していなかったり、コンビーナーが交代する等の問題が多く出ている。

・日本から基本性能に関して問題点のプレゼンテーションと改善案が提出されたが、最終的に難しい問題であり、各国委員会に意見を求めていく事となった。

[次回会議] 2010 年 10 月に米国シアトルで開催する。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62A④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：柴田優　報告書作成者氏名：佐久間一郎　（会社名）東京大学工学部

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC62（半角）
TC62	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	医用電気機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 17 日 ～ 2009 年 6 月 18 日		
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. Godiniz(米国)	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	14 ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、韓国など、参加人数（50）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○佐久間一郎（東京大学）、内藤正章（日本光電）、辻久男（島津）、岸本眞治（日立メディコ）他 3 名		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景・目的：活動全体の課題、4 つの SC の活動状況の確認、問題点などの解決を図ること、及び新たな活動方向を模索するために、開催された。

成果：①日本からの基本性能（Essential Performance）の問題指摘：日本から”基本性能に関してはクリアーな規定がされておらず、各グループでの理解が異なり個別規格のなかで大きな差がある。個別規格で多くの基本性能が規定がされた場合、EMC 試験が不可能な状況である”との指摘をした。この件に関して Chiarman Advisary Group 会議、全体会議のなかで最も時間をかけて議論された。→問題の理解は得られた。・IEC60601-1:2005 の Amendment 1 のなかで、基本性能の規定の改善を図っていく。・1998 年に出されている”基本性能選択のガイダンス”を見直していく。⇒日本の TC62 国内委員会としては、今後タスクフォースを作って、基本性能に対する対応を図っていくこととした。

②新たな SC 設立の提案：医療機器の情報マネジメントシステム（ソフトウエア）に関する SC62E を作る提案があった。結論としては設立は見送られた。・しかし、この件は重要であり前向きに対応していく。現在検討している IT ネットワークのリスクマネジメントの活動範囲を広げる（7 項目を追加）こととした。・また将来この種の規格の枠組みを明確にする戦略プランを検討する AdHoc を設立することとした。

問題点：今後 ISO/TC184/SC2(Robotics in personal care)と協力関係を構築していく必要がある。

次回会議：2010 年 10 月シアトル、IEC 総会と同時開催予定。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：200 年　月　日

（報告者記載）予算番号：H21SC62A⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：柴田優　報告書作成者氏名：池田　智　（会社名）東芝メディカルシステムズ（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	SC 62A (半角)
SC62A/JWG7	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	医用電気機器共通事項
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 10 日 ～ 2009 年 6 月 12 日		
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Sherman Eagles / Todd Cooer	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、英国、カナダ、日本、参加人数（30）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○池田 智（東芝メディカルシステムズ株式会社）←申請は神谷正樹氏（東芝メディカルシステムズ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

【背景】IEC62304 ソフトウェアライフサイクルプロセス規格によりソフトウェアへのリスクマネジメントが要求されるようになった。その後、Medical Device が IT-Network に接続され運用される場合のリスクマネジメントについて IEC80001 として JWG7 にて審議が開始された。2009 年 2 月に 2 CD に対するコメントが締め切られ、現在、2009 年 9 月の 1 CDV 公開に向けた活動が進められている。

【目的】（1）1 CDV 原案動向を把握し、日本のコメントの反映（2）IEC80001 ガイダンス開発計画の把握

【結果】（1）1 CDV 原案策定

・主な議論は、次の 2 点　①Role と Responsibility に関する基本的な考え方の確認　②リスクアセスメントプロセス定義。①については基本的な考え方が確定して、1 CDV に反映された。②については、1 CDV での章立てが確定し、次回 IEC Annual Meeting にて詳細が確認されることになった。

・これまで Manufacture に情報提供責任が付与されていたが、Vendor にも情報適用責任を広げることになった。

・日本から提案したコメントについては、Annex に関する 1 点を除いて原案に反映されることになった。

（2）IEC80001 ガイダンス策定

・ガイダンスを TR として開発することが決定された。

・ドイツの病院での先行適用事例紹介がされた（Jochen Kaiser 氏）。80001Annex をより具体化したガイダンス（テンプレート、チェックリストの充実など）の必要性が強く訴えられた。

・優先発行ガイダンスを決定した（IEC80001 の IS 化までに TR として発行する）Guidance for Healthcare delivery Organization / Guidance for wireless networks / Guidance for the communication of medical device security needs, risks and control / Guidance for development of responsibility agreement / Common Hazard

【今後の予定】

・2009 年 10 月 IEC Annual Meeting（米国）にて CDV 最終原案の審議及び TR ドラフトの審議

・2010 年 2 月 1 CDV コメント締切

・2010 年 12 月 IS 化

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62A-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 7 月 27 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62A⑮

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：柴田　優　報告書作成者氏名：　倉部勇一　（会社名）日本光電工業(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	医用電気機器共通事項
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 6 月 15 日 ～ 2009 年 6 月 19 日		
開　催　場　所	（国名）ベルギー	（都市名）Brussels	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.M.Sippl	幹事国　USA	
参　加　国及び 参　加　人　数	10 ヶ国、主な国名 ドイツ、イスラエル、オーストリア、イギリス、USA、日本、参加人数（21）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○倉部勇一（日本光電工業(株)）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景・目的
   この WG は、医用電気機器の試験について検討を行っている。
   IEC60601-1 第 3 版は多くの問題点が指摘されており、Amendment 1 の改訂作業が行われている。 今回の会議では、医用電気機器の安全規格の試験に関する第 3 版の改訂検討を行った。
2. 成果
   1) IEC60601-1 のリスクマネジメントに関する試験項目について審議した。
      ー 機械系の試験内容について、現行規格では「リスクマネジメントファイルの調査によって確認」となっている試験項目を「function test で確認」に変更するなど、試験内容を明確にした。
      ー 試験の一般的条件について、現行規格では「リスク分析の結果を使用する」となっている試験項目を、例えば、湿度前処理の条件を「IPXO と汚損度 2 の機器は 48 時間、それ以上の分類は考慮すること」など、条件を決めた。
   2) 過去に提出された問題点(issue sheet)の検討
      WG14 が検討することになった issue shhet について、方向性を決めた。例えば、電源入力の計測器を明確にした、接地漏れ電流測定の図で用いている記号を混乱が生じないようにした、表示耐久性試験で用いるアルコールを明確にした、など。
   3) これまで WG14 で議論してきたテーマのうち、Amendment 1 の検討課題として取りあげるかどうか審議した。例えば、テストフックの公差、沿面空間距離の他規格との整合、測定治具で使用する抵抗の誤差、など。
3. その他
   今回、IEC60601-1 第 3 版の試験項目「リスクマネジメントファイルで確認」のうち、いくつかの試験項目について議論したが、このような試験項目はまだ他にもある。今後、継続的に審議が進められ、試験項目を明確にしていく。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：内藤正章　（会社名）日本光電工業

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D (半角)
SC62D	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	医用電子機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 15 日 ～ 2009 年 6 月 17 日		
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr.Schaefer（独）	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	12 ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツなど、参加人数（34）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小山裕徳（東京電機大学）、○内藤正章（日本光電）、池田（PMDA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景･目的：医用電子機器の個別安全規格を担当しているグループで、26 にわたる MT,JWG で構成されており、日本から 20 名のエキスパートを登録している。昨年度、日本から 12 の国際会議に出席し、国内でも一回国際会議を行い規格作成に積極的に加わっている。全体の活動状況、問題点の把握のため当会議及び 62D Chairman Advisory Group 会議に出席した。

成果：第三版対応の多くの個別規格のメインテナンスは CDV あるいは FDIS、さらには発行段階に至るなど、大幅な進展が見られたことが報告された。また ISO とのジョイントで行われている機器の個別規格も多くの進展が見られた。

・ISO/TC 121/SC6 から Medical Supply Units の New Work の申し出があり、現在 NP を各国に回している。
・今後 ISO/TC 184 /SC2 との間で、robotics on personal care について協力していくことになった。
・ISO/TC 121/SC3 から在宅用の人工呼吸器の改定のため JWG で検討したいとの提案があり、その方向で検討する。
・TR 61288-1/-2（除細動器の使用と保守）のメンテナンスは MT 19 へ、TR 61289-1/-2（電気メスの使用と保守）のメンテナンスは MT 17 へ移ることになる。

各 MT、JWG からの報告がされたが、大きな議論はなかった。ISO/TC 215 が Computer-assisted electrocardiography を発行したことが報告され、WG31 を解散することとなった。また JWG11 は Electrical Aspects of Dental Equipment というタイトルであるが、電気的問題のみに限定されないのでタイトルの変更が必要ではないかとの意見があり、これらは INF を回付して各国の確認を取ることとなった。

問題点：MT26（筋電および誘発反応装置）による IEC 60601-2-40 の改定については全く進んでおらず、このプロジェクトを取り下げ、MT26 を解散することとなった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC62D-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 15 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62D⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：岸本　眞治　（会社名）kk 日立メディコ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D (半角)
SC62D/MT18	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	治療機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 6 月 11 日 ～ 2008 年 6 月 12 日		
開　催　場　所	（国名）ベルギー王国	（都市名）ブリュッセル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Kok-Swang TAN	幹事国　カナダ	
参　加　国及び 参　加　人　数	5ヶ国、主な国名 カナダ、米、中、ブラジル、日　、参加人数（5）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○岸本眞治(日立)、		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

［背景］ 2006 年 10 月の IEC/TC62 Delft 会議決議に従い、SC62D/MT18 は 4 件の理学療法機器の個別安全規格を、親規格 IEC 60601-1 Ed.3 に整合させるべくﾒﾝﾃﾅﾝｽを手掛けている。　IEC 60601-2-5 Ed.3：超音波治療機器の個別安全規格　第 3 版　は既に CDV が 08 年 11 月に投票完了し、FDIS を省略し IS 発効の見込み。　しかし残 3 規格・IEC 60601-2-3 、IEC 60601-2-6 、IEC 60601-2-10 は CD 策定未着手であり、失効の虞が多大であった。

［目的］ 今回は残り 3 規格の CD 審議を開始し失効を免れることを第一目的とした。

［成果］ コンベナーの Dr. TAN　が章だてなどを親規格に多少合わせた IEC60601-2-3、IEC60601-2-6、および IEC60601-2-10 の草稿を Jeffrey L. Eggleston 氏が全面修し、ワーキングドラフトとした。なお今後は審議リーダーを務めるとの事となった。　IEC 60601-2-5 Ed.3 を参考に、親規格 IEC 60601-1 Ed.3 に整合させる事に専念した。　ただし、当該 CDV 投票後の修正箇所が関連する場合はコメントと変更内容をその都度説明した。　なお本事項は 5 箇所程度であった。なお IEC 60601-2-5 Ed.3　超音波治療機器では「超音波出力の測定手法の規格や「測定機器の仕様規格」さらに「校正規格」などを多数引用しているのに対し、これらの 3 規格は、

① 出力の測定は規定せず、各治療機器の電気的な値だけで制限値を記述している。

② もしくは、測定手法は Annex に記載し、定期的に見直してはいない。

と言う状況であり、個別安全規格としては内容が不十分であるとの議論がなされたが、改訂を急ぐので暫時このままとし CD 審議で検討する、こととした。

なお　いずれの草案にもエッセンシャルパフォーマンス対応は入っていない。

二日間の集中審議で、3 規格ともワーキングドラフトをまとめる事ができた。　いずれも形状は整ったがかなり白紙部分が多く残っている。　審議リーダーの Jeffrey L. Eggleston 氏がすべて追記する事に同意し、審議終了とした。

［問題点］ 2009 年 10 月　3 規格の CD をサーキュレート、2010 年 2 月コメント締め切り、3 月コメント審議,CDV 準備、9 月 CDV コメント締め切り、10 月　ＴＣ62 シアトル会議にて CDV コメント審議,　と非常に日程が厳しい。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC80-①（事務局記入）　　様式 4
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009年 7月 17日

（報告者記載）整理番号：H21TC80③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009年 6月 29日 ～ 2009年 7月 1日		
開催場所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr S. Steier	幹事国 UK	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 英国、米国、ロシア、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、韓国、日本、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○田北 順二 （日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．背景　：船舶搭載機器のデジタルインタフェース規格審議、開発のための委員会である。

2．目的　：舶用機器に使用するシリアルインタフェースの改訂の審議、イーサーネットを使用した軽量インタフェース新規規格の検討、及び IMO（国際海事機関）で採択された INS 性能基準やアラート・マネージメント性能基準のためのインタフェース規格開発の検討を行う。

3．成果　1) IEC 61162-1

・NMEA0183 V4.00 が発行されている。この V.400 には、AIS 基地局、AtoN 用のセンテンス PAS103 の内容が盛り込まれている。今後、IEC 61108-3 ガリレオ受信機用のセンテンスが追加される予定。

・IEC 61162-1 Ed4 の発行予定は、2011 年になり、次のメインのセンテンスと船舶用 AIS, 基地局用 AIS のセンテンスを分けて記載する構成案の提案が Convener よりあった。

・AIS WG から提案されている PAS103 の取り扱いについては、IEC 61162-1 に必要なセンテンスを現在の PAS103 から抽出し、IEC 61162-1 に盛り込むことを TC80 Secretary に提案することになった。

・日本（JRC）から提案した空中線等の位置と CCRP のためのセンテンスについては、AIS で採用済みの船形の端からの距離による方法より日本提案の X,Y 座標系での表現がベターとの合意が得られ、更にセンサー等の高さ成分（Z）を加えた方がよいとの意見により、高さ成分（Z）を追加することになった。

・AIS WG から提案のあったセンテンスについて審議し、修正提案をすることになった。（継続審議）

・INS, BNWAS 用センテンスについては、INS WG と連携して必要なセンテンスを開発することになった。

・航海灯の性能基準 MSC.253(83)にて、アラーム情報の外部機器への出力が要求されていることから、航海灯の Talker ID を“ NL ”とすることになった。アラーム情報の出力には、通常、ALR センテンスを用いる。

2) IEC 61162-3 (NMEA2000)

NMEA より次の報告があった。(前回の報告と同じ)

・Class-B AIS 用の PGN(Parameter Group Number)を作成した。

・アラート・マネージメント用のドキュメントを作成した。

3) IEC 61162-450 軽量イーサーネット(Light Weight Ethernet)

・IEC 61162-450 CD(80/558/CD)について各国から寄せられたコメントを審議した。日本から提案したコメントは、大部分が採用された。

・IEC 61162-450 は、UDP ブロードキャストをベースにするが、他のプロトコルを条件付きでの使用が認められることになった。

・UDP によるデータ消失を認識するため、シーケンシャル番号の付加を要求することになった。

・機器構成、正常な動作、接続の確認のため、ハートビートが採用されることになった。

・レーダ映像の UDP による送信については、データ消失等の可能性があるため、更に検討することになった。（韓国より、シーケンシャル番号による確認、データ消失時にデータ再送の提案あり）

・各国からのコメントの回答について、7 月中に WG6 の見解をまとめ、最終回答案を作成することになった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 12 日

（報告者記載）予算番号：H21TC93①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：山本一郎　報告書作成者氏名：小島　智　（会社名）ＮＥＣシステムテクノロジー㈱

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC93（半角）
WG2	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☒ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	名　称（日本語）	デザインオートメーション
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 7 月 30 日 ～ 2009 年 7 月 30 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）サンフランシスコ市（カリフォルニア州）	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺｺﾝﾍﾞﾅ：小島 智	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	3 ヶ国、主な国名 米国、日本、独、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○小島智（ＮＥＣシステムテクノロジー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。
<目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE ダブルロゴ標準手順の定着迅速化、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。
＜成果＞TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会と緊密な連携し活動展開している。特に WG2 国内活動は、JEITA EDA 技術特別委員会を中心進めており、小島が WG2 コ・コンビナとして国際標準化活動を推進すると同時に日本の意見反映をしている。

国際学会 DAC2009 に併せ WG2 会議を開催し、2009 年の新規規格とメンテナンス規格について、作業の進捗状況を確認した。これらは IEC と IEEE のデュアルロゴ規格であり、IEC 標準化プロセス(Fast Track)の候補となる。

今回 SPIRIT コンソーシアムが推進していた IP-XACT が IEEE P1685 として作業を開始した。従来 IEEE 規格の設計言語とは異なり設計ＩＰの普及と再利用に関する標準であり、今後の動向を注目したい。また、９月に京都開催の TC93 全体会議と併せて WG2 会議開催を予定しており、このアジェンダ案を検討した。

新規規格：
- IEEE1801-2009(Power Format)は、正式に３月 IEEE 規格となった。しかし、標準化プロセスを急いだため、実際に設計現場で使用した経験から多くの意見が寄せられており、文章表現の改善と追加が必要になっている。また、IP-XACT との相互利用性を考えてのエンハンスが提案されている。２つのフォーラム標準問題だけでなく、IEC 標準規格にするには、熟成期間が必要と考える。

メンテナンス規格：
- IEEE1666-2005(SystemC)は、FDIS 投票を完了した。IEC61691-7 を予定。
- IEEE1076.1-2007 と IEEE1076.1.1-2004 は、FDIS 投票中に一本化する方針に変更になった。IEC61691-6-1 を予定。
- IEEE1076-2008 は、IEC61691-1-2 を予定。また、IEEE1076 の従属規格（1076.2、1076.3、1076.4 及び 1164）は、IEEE1076-2008 に統合されため、IEC での取り扱いを協議する。
- IEEE1800-2009(SystemVerilog と VerilogHDL 統合)は、IEC61691-6-2 を予定。IEEE 規格化は 2009 年末にシフトし、成立の見通し。統合により、VerilogHDL(IEEE1364-2005、IEC61691-4-1)の取り扱いも協議する。
- IEEE1481-1999(DPC)は、IEC61523-1-2 を予定。
- IBIS4.2 は、規格メンテナンス提案の日程を確認し、その後進め方を調整する。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-①（事務局記入）　　様式 4
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：石黒勝己　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110/WG2（半角）
TC110/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	フラットパネルディスプレイ／液晶グループ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 5 日 ～ 2009 年 6 月 7 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺﾝﾍﾞﾅ：石黒勝己	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国（台湾）、アメリカ、オランダ、参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○石黒勝己(シャープ)、○芝原嘉彦(富士フイルム)、小池崇文(日立製作所)、平 和樹(東芝)、 久武雄三(東芝モバイルディスプレイ)、上原伸一(NEC 液晶テクノロジー)、川島正裕(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1.背景・目的

・液晶ディスプレイモジュールに関する各種測定法規格として、現在策定作業中の IEC61747-5-2、5-3、6-2、6-3 の審議、及び IEC61747-5、-6 のメンテナンス審議、更に新規提案への対応を行う。

2.成果

(1)策定審議中の下記規格案について審議を行った。CDV 投票を行った案件については基本的に可決された。

①IEC61747-5-2(アクティブマトリクス LCD モジュールの外観検査)

・CDV が承認され、FDIS に進めることを確認した。今後 PL が FDIS 文書を作成しセクレタリに提出。

②IEC61747-5-3(ガラスの機械的強度と信頼性測定法)

・4/28 に IS が発行されたが、FDIS 投票時にコメントがあり、今後審議・改定をどうするか検討する。

③IEC61747-6-2(反射型液晶モジュール測定法)

・5-2 同様、CDV が承認され、FDIS に進めることとなった。

④IEC61747-6-3(アクティブマトリクス液晶モジュールの動画ボヤケ測定法)

・5-2 同様、CDV が承認された。今後 PL が改定文書を作成。CDV 時に反対投票もあったため、FDIS までの手順に関しコンベナが国際幹事と相談する。

(2)下記 2 件のメンテナンス文書について審議を行った。

①IEC61747-5(環境、耐久性、機械的強度試験法)

・規格の構造を含めた内容を今後メールベースで見直し・確認することとした。

②IEC 61747-6(透過型液晶モジュールの測定法)

・CD 文書に対して出されたコメントの審議を行った。今後 2ndCD に進むことを合意した。

(3)新規提案として下記 2 件が紹介された。

①モバイルディスプレイ用カバーガラスの力学的試験法ガイドライン

・米国より文書が配布され、概要が説明された。今後当 WG2 にて扱うことで合意した。

②液晶用タッチパネルの測定法

・韓国より概要が説明され、これも WG2 にて扱うこととした。

(4)次回予定：IDW2009 に合わせ、2009 年 12 月に日本(宮崎)で開催予定。必要に応じ事前に Adhoc 会議を設定する。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：安藤　亨　（会社名）パナソニック株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC110/WG4 (半角)
TC110/WG4	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	フラットパネルディスプレイ／プラズマグループ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 5 日 ～ 2009 年 6 月 7 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG4 ｺﾝﾍﾞﾅ：打土井正孝(代理)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5 ヶ国、主な国名 フランス、日本、韓国、オランダ、米国、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○打土井正孝（パナソニック）、○安藤亨（パナソニック）、佐野勇司（東洋大学）、川原功（パナソニック）、御子柴茂生（電通大）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

インフルエンザ問題でコンベナ(篠田氏)が急きょ出席できなくなったが、代理コンベナとして打土井氏を事前アサインして会議を開催した。

（1）Part 2-4(測定法・Visual quality)を中心に議論を行った。コンベナおよび PL(HGPark 氏/LG)が不在であったが、日本で 2nd CD へのコメントを検討した結果、修正すべき点が多数あることが判明したため、日本から修正の具体提案とともに、

①San Antonio 会議で修正原稿を作成し、次のステップを CDV ではなく 3rd CD とする。
②コンベナおよび PL の確認を主目的とした Ad hoc 会議を San Antonio 会議後速やかに(7 月)開催する。
③8 月初旬に 3rd CD を回覧し、12 月宮崎会議でコメント収集結果について議論できるようにする。CDV は宮崎会議後に作成する。

というスケジュールについても提案して了承された。このタイトなスケジュールをこなすため、臨時 PL として安藤委員が問題点をとりまとめ、修正案まで作成して会議に臨んだ。San Antonio 会議は native の参加が多いため、英文のチェックも念入りに行った。この結果、目論みどおり会期中にドキュメント全体の修正文案およびコメントへのレスポンス案を作成することができた。

（2）先立って行われた HHG(横串プロジェクト)会議の結果を WG4 にフィードバックして議論をした。この役割も日本メンバー(安藤委員、打土井委員)で行った。この議論結果は Part 1 (IEC61988-1; 用語)のメンテナンスの原稿に反映することとした。

（3）その他 Part 2-1 (IEC61988-2-1; 測定法)のメンテナンスの CD に対するコメントの検討、Part 4-2 (パネル強度)の文章について、打土井コンベナ代理のリーディングで議論を進めた。

以上、出席者が通常より少なかったものの、重大テーマであった Part2-4 を含めすべてのプロジェクトについて予定通りの進捗となった。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：　前川　雄一　（会社名）コダック株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110/WG5 (半角)
TC110/WG5	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	フラットパネルディスプレイ／有機 EL グループ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開　催　期　日	2009 年 6 月 5 日 ～ 2009 年 6 月 7 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG5 ｺﾝﾍﾞﾅ：Jeongno Lee（韓国）	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 米国、オランダ、UK、韓国、日本、参加人数（9）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○前川 雄一 （コダック株式会社）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

WG5 では、信頼性関係が 2 プロジェクト(5-1 と 5-2)、測定法が 2 プロジェクト(6-2 と 6-3)、Preliminary study が 2 アイテム進行中であり、今回の会議では、5-2、6-2 と、Preliminary study の 2 アイテムについて集中的に審議を行った。

（1）Part 5-2　Mechanical Endurance / PL　Ha（KR）
2009 年 5 月 29 日に NP 投票が締め切られ、中国、ドイツ、日本、アメリカ、韓国が参加を表明し、NP 化された。今回の NP 投票にて、日本はコメントを 23 件提出し、合意に至ったものは 14 件のコメントであった。今後、メカ関係エキスパートが会議に出席することにより、日本案の一層の浸透を行いたい。

（2）Part 6-2　Measuring Methods of Visual Quality / PL　Penczek（US）
2009 年 5 月 22 日に CD 投票が締め切られ、オランダ、韓国、日本からコメントが寄せられた。日本は追加コメントを含め、20 件提出しており、概ね、合意に至った。本プロジェクトには、欠陥検査の項があるので、現状に合わせた規格とするため、是非、日本、韓国コメントの浸透を一層強化したい。また、Measuring Methods of Visual Quality and Ambient Performance へタイトル変更が提案され WG5 内で合意が得られた。

（3）Preliminary study of Image sticking　/ Co-PLs Lee(KR) and 浅井(JP)
韓国が日本との共同プロジェクトを提案している。本会議では、UK がプレゼンを行い、CIELAB による特性付けなどが提案された。PDP の規格が FDIS まできているのでハーモナイズの観点から、この方法で不都合があるかどうかのスタディをパネル製造会社中心に進める必要がある。韓国がまず役割分担をしたいので、できれば face to face meeting を持ちたいと提案を受けた。

（4）Preliminary study of CIECAM02 / PL Chong(KR)
CIECAM02 を用いた有機 EL ディスプレイの特性付けに韓国が興味を持っており、2007 年の 9 月の広州会議より、WG5 でプレゼンテーションを行っている CIE の DIV1、DIV8 エキスパートに CIECAM02 を有機 EL ディスプレイに応用したときの懸案点を伺いスライドにまとめ報告をし、CIECAM02 が標準化されるまでは、CIECAM02 の OLED ディスプレイへの応用を延期することにした。

（5）今後の会議予定
12 月に開催される TC110 の Plenary meeting に合わせて開催する。また、6-3 の PL が欠席であったため進捗がなかった。そのため、9 月もしくは 10 月に Ad hoc 会議を開催したいと考えている。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：平 和樹　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角） TC110/PT62629	区　分 □TC □SC □TA □WG ☒PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他 □TC □SC □TA □WG □PT □その他	組織番号（TC/SC/TA） 名　称（日本語） ☒単独開催 □同時開催	TC110/PT62629（半角） フラットパネルディスプレイ／3Dﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
開催期日	2009 年 6 月 6 日 ～ 2009 年 6 月 6 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	PT リーダー：Lee 氏(韓国)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、韓国、米国、オランダ、参加人数（24）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○平 和樹（東芝）、○小池崇文（日立）、御子柴茂生（電通大）、岩間英雄（日本 CMO）、宮﨑達哉･久武雄三（東芝モバイルディスプレイ）、上原伸一（NEC液晶テクノロジー）、川島正裕･打土井正孝･安藤亨（パナソニック）、石黒勝己（シャープ）、芝原嘉彦（富士フィルム）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

韓国 NC より提案された、メガネ無し方式 3D ディスプレイ光学測定法(PT62629)についての議論を含む、TC110 直轄の 3DDP（3D Display Program meeting）として宮崎 TC110 アシスタントセクレタリの司会進行の下に開催された。

(1)まず、岩間セクレタリから 3DDP 開催宣言及び概要説明の後、リーダ Lee 氏により PT62629 についての審議が開始されたが、中国 NC から事前提出されたコメントに基づき、PT62629 の表題と取扱範囲を巡って韓国、日本の意見が対立し、PT62629 については具体的な進展無く次回に審議持ち越しとなった。なお、PT62629 については幹事より NP 投票の結果成立が報告された。

(2)次に、宮崎アシスタントセクレタリから 3D 標準化に関する Grandmap の提案が行なわれ、3D 用語、性能仕様、光学計測法などとメガネ方式/メガネ無し方式など各種 3D 表示技術の関係を示した Grandmap に基づき、PJ 化に対して議論を行った。その後、日本及び韓国から 3D 用語、メガネ方式 3D ディスプレイ光学計測法に関するプレゼン、更には韓国から視覚疲労に関する客観計測法についての技術プレゼンが行なわれた。韓国は総勢 10 名が参加し、3D 標準化に対し非常に積極的な姿勢が示された。

結論として、中国など不参加国もあったため、今回の会議内容を元に各国意見を募り、12 月宮崎での全体会議前に 3D に関する Ad hoc 会議開催を検討することがセクレタリより提案され、合意に至った。代表報告者の平委員は久武委員、小池委員、上原委員と共に PT62629 の Expert として参加し、PT62629 に対する意見交換はじめ 3D 用語の技術プレゼン対応など、韓国ほか各国の出席者に対して日本意見の主張及び意見交換による相互理解に努めた。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：宮﨑達哉　（会社名）東芝モバイルディスプレイ株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC110/PT62629、PT62595、HHC (半角)
TC110/PT62629	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
TC110/PT62595	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他	名称(日本語)	ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ／3D ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ、ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ、ﾊｰﾓﾅｲｽﾞ
TC110/HHG	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 5 日 ～ 2009 年 6 月 6 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	PT62629 PT ﾘｰﾀﾞ：Lee 氏(韓国) PT62595 PT ﾘｰﾀﾞ：Cho 氏(韓国) HHG ﾘｰﾀﾞ：Penzeck 氏(米国)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、韓国、米国、オランダ、参加人数（24）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 【PT62629 (3D ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)】○宮﨑達哉(東芝ﾓﾊﾞｲﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)、御子柴茂生(電通大)、岩間英雄(日本 CMO)、石黒勝己(ｼｬｰﾌﾟ)、小池崇文(日立)、打土井正孝･川島正裕･安藤亨(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ)、芝原嘉彦(富士ﾌｲﾙﾑ)、上原伸一(NEC 液晶ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ)、平 和樹(東芝)、久武雄三(東芝ﾓﾊﾞｲﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ) 【PT 62595 (液晶用ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ)】○宮﨑達哉(東芝ﾓﾊﾞｲﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)、御子柴茂生(電通大)、岩間英雄(日本 CMO)、ｶﾗﾝﾀﾙ･ｶﾘﾙ(日本ﾗｲﾂ)、木下順一(ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)、石黒勝己(ｼｬｰﾌﾟ) 【HHG (規格間ﾊｰﾓﾅｲｽﾞ)】○宮﨑達哉(東芝ﾓﾊﾞｲﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)、御子柴茂生(電通大)、岩間英雄(日本 CMO)、石黒勝己(ｼｬｰﾌﾟ)、打土井正孝･安藤亨(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ)、芝原嘉彦(富士ﾌｲﾙﾑ)、木下順一(ﾊﾘｿﾝ東芝ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

TC110 下記会議にアシスタントセクレタリとして出席し、主に新規テーマ関連の会議運営、調整、一部司会を行った。

【PT62969（3D ディスプレイ）】

韓国 NC より提案された 3D デバイス測定法 PJ(PT62969)につき議論。あわせてセクレタリから 3D 標準化に関する Grandmap の提案、Grandmap に基づいた Terminology, メガネ方式仕様、General specification 等の PJ 化に対して議論を行った。PT62969 については、NP 投票の結果成立が報告された。韓国から 10 名以上が参加し、Terminology, メガネ方式プレゼン、生体影響のプレゼン等がなされた。日本からは Terminology プレゼン、メガネ方式測定法プレゼンなどを行った。尚今回、不参加国（中国等）もあったため、今後の PJ 化については各国の意見をつのり、12 月宮崎での Plenary 会議前に Ad hoc 会議を開催し議論することなどを合意した。今回宮崎アシスタントセクレタリは幹事団として参加し、会議の進行役を務めた。

【PT62525（液晶用バックライト）】

前回韓国会議での合議内容に基づき、LED BLU の Methodorogy の CD 内容を討議した。ただし、中国の Expert が参加できなかったこと、CD の提示が会議直前であったことから、簡単な中身のレビューに終わり、CD 文書の回付および中国メンバーが参加する Ad hoc 会議の開催を検討することを議長裁定で提案された。

【HHG（規格間のハーモナイズ）】

TC110 直下の各 WG にて FPD デバイスごとに異なる用語の整理・整合・統一（できる範囲で）を目的に、優先順位の高い用語から配布文書に基づき、各 WG からの代表者(WG2,4,5)および BLU PT Expert を入れて議論。次回宮崎での Plenary 会議に併設する会合にて最終完成を目指す形が見えた。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／TC110-⑥（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：カランタル カリル　（会社名）日本ライツ株式会社

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC110/PT62595 (半角)
TC110/PT62595	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	フラットパネルディスプレイ／バックライトプロジェクト
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 5 日 ～ 2009 年 6 月 5 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）テキサス州サンアントニオ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	PT ﾘｰﾀﾞｰ：Meeryoung Cho（韓国）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 日本、韓国、アメリカ、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○カランタル･カリル(日本ライツ)、木下順一(東芝ﾊﾘｿﾝ)、御子柴茂生(電通大･TC110Chair)、宮ﾎﾟ達哉（東芝モバイルディスプレイ）、岩間英雄（日本 CMO）、石黒勝己（シャープ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1.背景・目的　PT62595　18:00～21:10

・TC110 の液晶用バックライト規格として、日本からバックライトに関するターミノロジーの提案と既に韓国から提案されているバックライト測定法（PT62595）の審議を行う。

2.成果

(1)会議開催二週間前に日本からバックライトのターミノロジー案を岩間セクレタリに提出し、韓国と中国側に送付された。しかし会議に参加できたのはアメリカから一人と日本・韓国のメンバーのみで、中国側は H1N1 の発生により不参加となった。
会議の冒頭に日本からターミノロジーの内容とその詳細に関して具体的に説明を行った。また、Dynamic と Static バックライトに関しても、今後ターミノロジーに追加することを伝えた。これに対し韓国側から、ターミノロジーは大変重要であり、十分整理されるべきとコメントがあった。岩間セクレタリから IEC NP Process 法に基づいて提案とコメントを提出するように韓国側に要請された。また、提案のターミノロジー中に他の WG と共通の用語が存在するため、他 WG と協議して最適な用語を選択し記入するよう御子柴 Chair からコメントがあった。

(2)韓国提案のバックライト測定法の Generic Specification について審議を行った。しかし改訂版文書が会議前に配付されず、事前に検討ができなかった上、韓国側は会議の席上で賛成／反対を即座に判断するよう求めるスタンスであった。更に各項目ごとの確認・理由説明においても測定の基本的な目的説明があいまいで受け入れられる内容ではなく、しばしば審議が止まる事態が生じた。こういった点を再度説明できるように韓国側にコメントし、正式にセクレタリを通して文章で回答して貰うことになった。

(3)各規格のリーダー分担に関し、Generic Specification については韓国と中国共に自らが行いたいと希望した。
これを受け、両者が Co-Leader として CD 提案を行う案や、中国が Generic Specification で韓国が Sectional Specification、もしくは逆に中国が Sectional で韓国が Generic を行う等の案を日本側から提案したが、韓国側から受け入れられないとの回答であった。このため、韓国と中国が個別に非公式協議を行うよう提案され、ASIA Display(10 月)か IDW2009(12 月)の際にセクレタリが仲介して開催することになった。

次回予定：IDW2009 に合わせ、2009 年 12 月に日本（宮崎）で開催予定。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 8 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　報告書作成者氏名：　小橋　一夫　（会社名）JEITA

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	JTC1/SC31 (半角)
JTC1/SC31	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC31/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	自動認識及びデータ取得技術
SC31/WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC31/WG4/SG5, WG4/SG7	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 6 月 8 日 ～ 2009 年 6 月 12 日		
開催場所	（国名）オーストラリア	（都市名）シドニー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	SC31：Chuck Biss, WG2：吉岡 稔弘, WG4:H. Berthel, WG4/SG7：D. Kimball	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	17 ヶ国、主な国名 SC31 総会：ｵｰｽﾄﾗﾘｱ、ﾍﾞﾙｷﾞｰ、米国、中国、韓国、ﾛｼｱ、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾌﾗﾝｽ、ﾄﾞｲﾂ、日本、参加人数（44）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○本澤純（日立）、○小橋一夫（JEITA）、柴田彰（デンソーウェーブ）、吉岡稔弘（AI 総研）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

SC31：総会なので、各 WG からの活動経過報告が中心であった。今年度のビジネスプランも反対なく了承された。今年度から、新たに WG7（セキュリティ）を新設することとなった。議長 Chuck Biss も米国から推薦提案があり、今後 3 年間の議長継続が承認され、JTC1 へ推挙することとなった。次回は、2010 年 5 月に北京。

WG2：Ad hoc から提起された「15459-1～6 までの内容を整理し、改訂する」方向が承認され、カナダが NWIP を作成＆提案することとなった。29162 についても、8 月には PDTR 投票へ進めることが確認された。

WG4：各サブグループからの報告、リエゾンからの報告が中心であった。SG1 のために作成された Data Construct Group が実質的な活動を行っていないことが指摘され、再構築しスケジュールを見直すこととした。SG3 からは、18000-6 改定の BRM が 1 回の会議で終了せず、8 月に再度電話会議を開催し、決着を目指すことが報告された。また、ITU が SRD（Short Range Device）を ISM から切り離す検討を進めていることに関し、SC31 として反対コメントを送る必要性が提案され、SC31 に提起することとなった。従来、年 2 回の F to F 会議を実施してきたが、今年度からは、1 回は F to F 会議、もう 1 回は電話会議とすることにした。次回は、2009 年 11 月で、電話会議の予定。

WG4/SG5：5 月に NP がパスした日本提案「RFID による医療機器への影響と緩和方法」TR に関して、日本から TR 内容に関するプレゼンテーションを行い、出席者との間で多くの意見交換が行われた。BRM は 7 月 9 日に電話会議で実施する。次回会議は、2010 年 3 月：韓国・Jeju 島にて開催の予定。

WG4/SG7：最終日の SC31 総会で、WG7「Security」として承認されることを前提とした会議であった。日本からは、響タグにおけるセキュリティ仕様の紹介を行い、好評であった。WG としてのカバー範囲が多岐に渡るため、15 以上のリエゾン関係構築が提起され、承認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122